

実地研修プログラム 奈良県地域生活定着支援センター

研修のアピールポイント

センターの特徴

- 年間支援件数は全国中央値だが、令和5年度の「支援ネットワークの構築・強化」の実績は全国トップクラス。「関係機関等との連携及び地域における支援ネットワークの構築等」が特徴

官民協働の実践例

- 奈良県居住支援協議会との連携構築
- 奈良市等の市町村の自立支援協議会への参加
- 入口支援では、検察庁、保護観察所、弁護士会、拘置所と連携
- 「あしかプロジェクト」を創設。司法、福祉、医療、教育、行政など各機関の関係者が参加し、誰一人取り残さない社会の実現に向けて重層的支援体制を構築

受講者の声

本当に丁寧に企画をしていただきました。関係機関との連携に至るまでのプロセスなども、対象機関の方々から助言等もいただけたことは有難かったです。



1日目

研修全体のオリエンテーション

Ⅲ.事務業務：事務業務における官民協働で県と協働作成の月次報告書と連動した記録フォーマットについて説明

Ⅰ.官民協働：被疑者等支援業務に関する協議会

元弁護士会会長より、官民協働で進めてきた奈良県独自の入口支援について、実際に弁護士会を巻き込んでいく方法や、弁護士とのやりとりの方法など、実務的内容も含めて学習



振り返り

2日目

Ⅰ.官民協働：

居住支援協議会事務局（奈良県県土マネジメント部）訪問

官民協働の居住支援サミットの立ち上げを通して、定着センターの居住支援協議会の参画や、県担当課との密な連携の実現。そのエッセンスを学習



Ⅰ.官民協働：磯城郡自立支援協議会事務局訪問

官民協働の協議体に定着センターが参加する経緯の1つは、協議会の研修会講師を行うことである。講師依頼の経緯や協議会に参加するノウハウを説明

Ⅱ.援助技術：センター長より、支援の心構えや、カウンセリングの思考の展開などについて話し合い

Ⅰ.官民協働：「あしかプロジェクト」事務局訪問

民間事業所とセンターで立ち上げた重層的支援体制協議体である「あしかプロジェクト会議」の設立経緯やノウハウを説明。現在は、司法関係者を始め、福祉関係者、矯正施設職員や医療機関、教育機関・行政機関が参加し、官民協働で新しい・資源を・考える会として活動を継続中



振り返り

3日目

Ⅱ.援助技術：

対象者との面接

県福祉士会会長であるセンター長の実践に入り、ソーシャルワークカウンセリングという新しい手法を体感

「どんな困難ケースの現場に行っても、私たちソーシャルワーカーは太陽だ。行けば、その場が明るくなる」支援の実践と一緒に学習



実地研修の振り返り

「断らない支援」「生きがいを持った生き直し」「意義ある人勢」という考え方が印象に残っています。

